

令和7年度 授業改善推進プラン 技術・家庭科 （大森第三中学校）

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題
・ 実習題材を精選し、ICT機器を活用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。 ・ 技術科では、生物育成実習を実施し、作物の栽培を生徒に経験させることができた。実習から作物の特性や栽培方法の工夫点などを発見する生徒がいる中、関心の薄い生徒もあり、取り組みに差がみられた。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
知識・技能	・1年生の実習において、けがきやのこぎり引きのところで技能の差がみられることがある。mm単位の印付けには手こずる生徒が複数みられ、切断後に気づき材料が使用できなくなることがあった。 ・衣食住の生活のうち、衣と食の分野では、作品製作や調理などの実習における理解と技能に個人差が生じる。	・廃材等を用いた練習を繰り返し、工具の使い方や寸法の測定の経験を積ませる。また、印付けの間違いないように、1:1の設計図を用意し、照らし合わせて確認できるように支援をする。 ・基礎的な知識については、小テストを行い、定着を図る。技能面では手順に関する資料や動画などを共有し、繰り返し練習できるようにする。オクリンクを活用し、データ上で見られるようにする。
思考・判断・表現	・授業で学んだことを活かし、どう応用することができるのかを考える活動を行った。生徒の記述からは、思考を働かせている様子がうかがえるが、生徒によって差があり達成度に関きが大きい。 ・製作する作品を、より使い心地が良くなるよう機能やデザインを工夫し、自分の発想を表現できる力をつけさせる。 ・作品作りにおいて、製作する上での問題点を考え、問題を解決しようとする判断力を身につけさせる。自分の生活をよりよくしようとする意欲を今後も持続させる。 ・調理実習で作成した米粉と小麦粉のパンケーキを試食し、自身で感じた素材の違いを自身の言葉で表現することが苦手な生徒が多い。	・意見の共有を今までより盛んに取り入れたい。生徒がさまざまな意見を取り入れ、柔軟な考えを出せるように働きかける。意見をまとめる際、紙媒体であると情報の共有として効率が悪いことがあるため、PCを積極的に活用して共有活動を図る。 ・生徒の工夫や発想のよいところを見つけ、褒めるよう心がける。自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスを行う。 ・見本となる作品例や段階標本を示すことにより、自身の作品の進捗や精度を確認しながら、創意工夫できるようにする。 ・例を出したり、食感や味を表現する言葉を提示し、生徒が想像し安易に工夫する。
主体的に学習に取り組む態度	・教科の内容を学んだうえで、社会や環境をよりよくすることを考える活動を授業で取り組んでいる。しかし、授業での取り組みを踏まえたことを考えられていない生徒がおり、教科の学習が態度等に十分に反映されていない。 ・作品製作や実習は意欲的に取り組む生徒が多いが、座学の授業では、興味関心に個人差があり主体的な取り組みにもばらつきが見られる。 ・作品製作や調理実習では、苦手意識をもつ生徒に対して、意欲的に取り組むことが出来るような働きかけが必要である。	・自分の考えが他の人との考えとどう違うのかを確認し合えるように、グループ協議の時間を確保する。また、自分の発想が現実味がある現実味があるのかを再度考える時間をつくり、考えを深化させる。 ・座学の授業では、実物投影機・パワーポイント・プロジェクター・電子黒板等のICT機器や、一人一台端末などを活用し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような教材の工夫をする。また、めあてを明確にすることにより、生徒が目標をもって授業に臨めるようにする。 ・作品製作では、授業毎に自己評価を行う。小さな目標を段階的に設定することにより、達成感を味わいながら進められるようにする。 ・調理実習では苦手な生徒でもできるように簡単なものから作り、得意な生徒とグループを一緒にして、教え合う体制を作る。